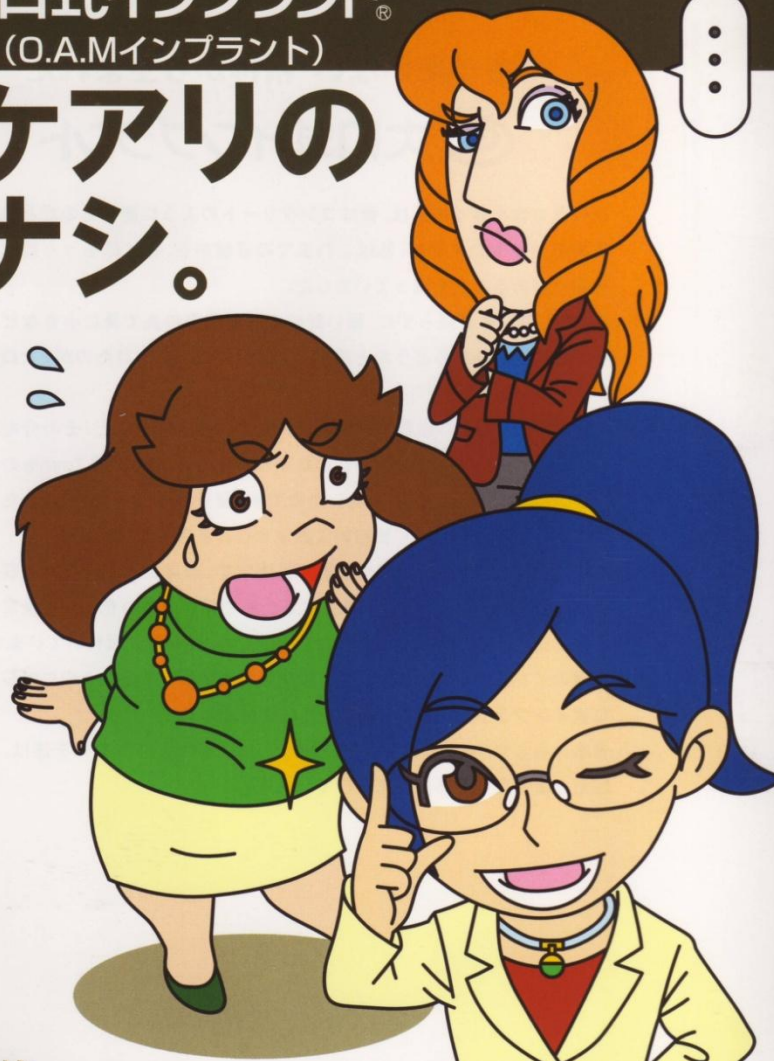


 大口式インプラント®
(O.A.Mインプラント)

ワケアリの ハナシ。



原案・監修

大口 弘 医学博士
国際審美学会会長

原作・作画 ヒラノ マサヤス

「このウェブサイトのすべてデータの無断使用・転載・複写を固く禁じます。」 国際審美学会・事務局

 大口式インプラント®
(O.A.Mインプラント)

ワケアリの ハナシ。



原案・監修

大口 弘

医学博士
国際審美学会会長

原作・作画 ヒラノ マサヤス

“もったいない”精神から生まれた

 大口式インプラント

歯科医を含め多くの人は、骨はコンクリートのように硬いものだという先入観を持っていますが、私はこれまでの経験から、骨にはもっと柔軟性と伸縮性があることを知っていました。

そこで、顎の骨を削らずに、細い針のような器具の先で骨に小さなピンホールを開けてみたらどうかと思い、試行錯誤の上、生まれたのが「大口式インプラント」です。

ピンホールに、細い器具から一段太い器具に差し替えると、その分だけ骨が広がり、わずか2mmの厚みしかなかった顎の骨に、直径3.7mmものインプラントを入れることに成功したのです。驚くべきことに、挿入したインプラントはその場ですぐ物理的に固定することも分かりました。

医療の世界は、西洋の知識や技術が主流です。西洋文化というのは既存のものを良くも悪くも破壊し、除去することで新しいものを作って来ました。それに比べ、日本には「もったいない」という精神が深く根付いています。

従来のインプラント法がドリルで健康な骨まで削ってしまうのに対し、「大口式インプラント」はあくまでも元の骨を活かしています。

日本人らしい“もったいない”の精神が生んだ新しいアプローチ法は、日本はもとより世界から注目を浴びています。

「このウェブサイトのすべてデータの無断使用・転載・複写を固く禁じます。」 国際審美学会・事務局

◆登場人物紹介◆

臼井さん
(臼歯から由来)

ブランド大好き主婦。
ちょっと気難しい性格。
ブランド品以外には興味無し！
虫歯も無し！？

犬山さん
(犬歯から由来)

おっちょこちょい主婦。
食べる事が大好き。
先日、適当に歯医者を選び
駆け込みでインプラント手術をした。

中切さん
(中切歯から由来)

しっかりもの主婦。
満タンにした貯金箱は数知れず！
先日、下調べをしっかりと
インプラント手術をした。

あいた
——
っ！！

おっちょこちょい
主婦
犬山さん

ブランド大好き
主婦
臼井さん

あっ！中切さんも気を付けて
手術したばかりでしょ！？

ちよ ちよっと 犬山さん！
汚さないでよ！！ コレ高かったん
ザマスから！！

昨日インプラント手術
したの忘れてたわ！！

昨日買ったばかり
ザマスのよっ！！

どうして！？
…痛くないの！？

うーん
おいしいっ！

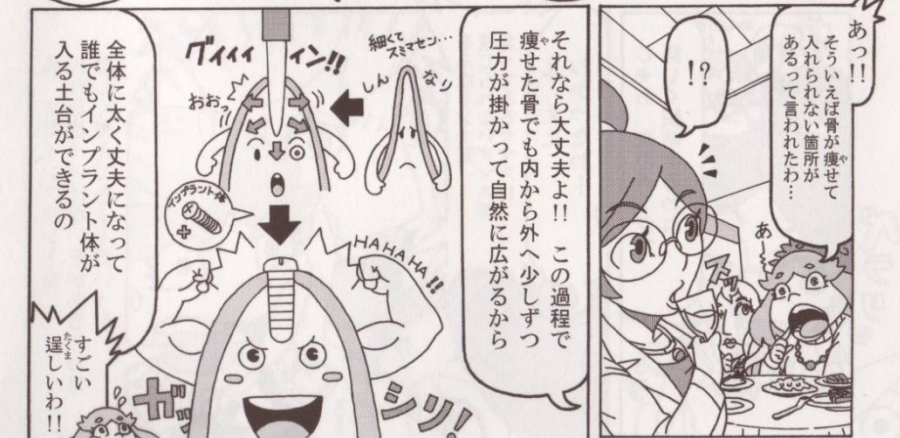
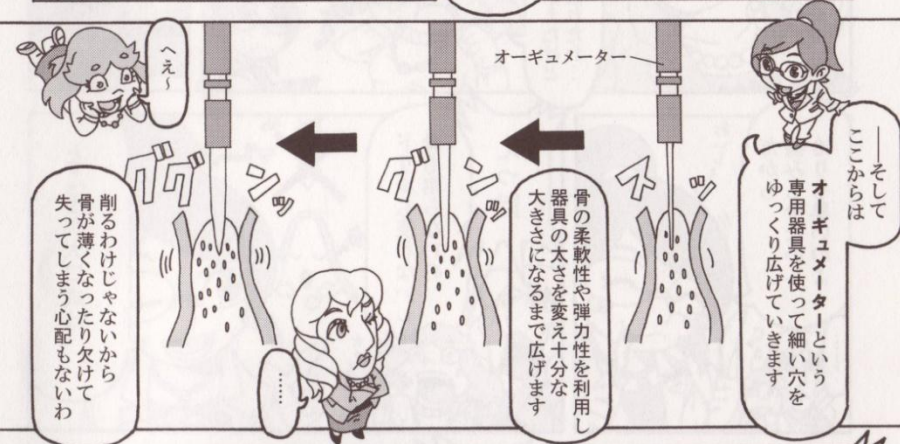
あら？

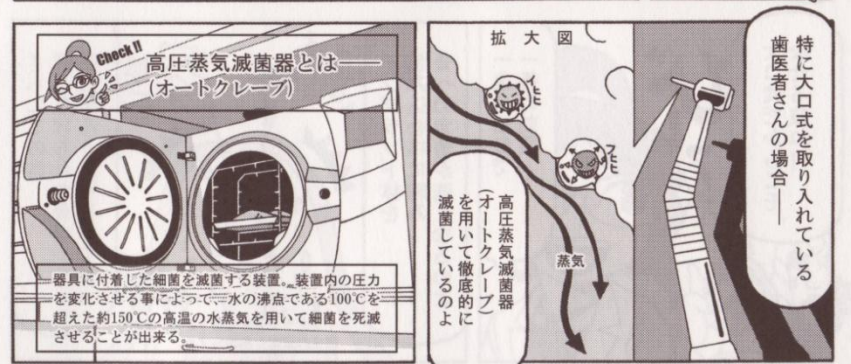
ザマス？

シアワセ〜

えええ
——それは









◆登場人物紹介◆



柚木 しげる

はなしが
断家見習いの大型ルーキー!?
最近、滑舌が悪くなっている事が
悩みのタネとか…
こうぞ
高座に立つのは夢のまた夢!?



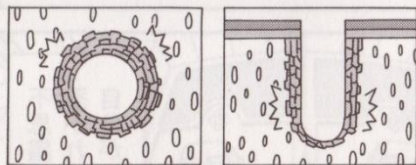
—— 桃栗 三年



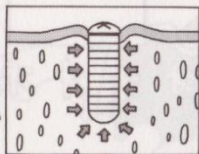
僕の名前は
柚木しげる



◆大口式のオウギ
インプラント体を強固に固定!!



オーギュメントで穴を広げていく際、穴の周囲の骨を細かく骨折させるので、インプラント体をしっかり包み込んで固定してくれる。



さらに一旦押し広げた骨は元に戻ろうとするので、インプラント体を締め付け確実な初期固定をする。

これにより従来のドリル式に比べ安定性や耐久力が格段に上がる。**「このウェ**

何か
書いてある……



全て集めた暁には
一人前の嘶家として
認める事としよう……

うわあああああゝ



「大口式のオウギ」
というモノがある

元

「このウェブサイトのすべてデータの無断使用・転載・複写を固く禁じます。」 国際審美学会・事務局



◆大口式のオウギ エクспанディング・ソケット法!!

断面図

△サイナス・リフト法

上の奥歯にインプラントを入れる時、すぐ上には上顎洞という空洞がありインプラントを入れようにも貫通してしまう。そこで通常は横から骨に穴を開け人工骨を埋め込む等、高度な技術が必要でリスクが非常に高い。
(サイナス・リフト法)

エクспанディング・ソケット法であれば…

上顎洞

人工骨

スキマに人工骨が入る

竹鉄砲の様に圧力で骨を押し上げる方法なので、煩雑さもリスクもなく十分に長く長いインプラントを入れる事ができる。



◆大口式のオウギ 最小限の傷で済む!!

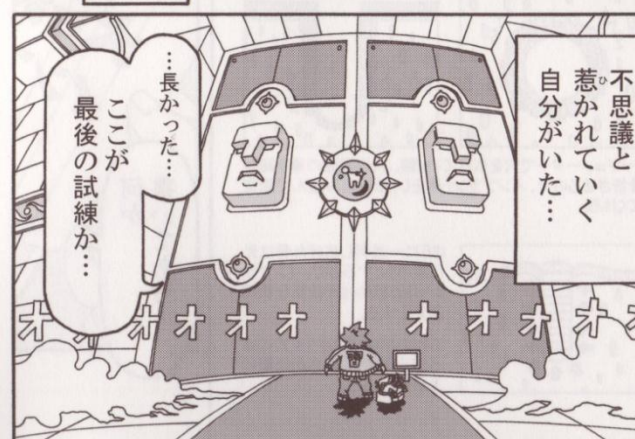
断面図

人工骨

インプラントを入れる骨は薄い場合が多く、腰や頤の先など別箇所からの骨の移植が必要で、その都度手術を要し、患者の負担が大きくなり、治療期間も長引いてしまう。

大口式であれば…

オーギュメーターで穴を広げ太くしていくので骨移植の必要がなく、歯槽骨への負担や切開する粘膜も最小限で対応可能。そのため傷の治りも早い。





「このウェブサイトのすべてデータの無断使用・転載・複写を固く禁じます。」 国際審美学会・事務局

ワケアリのハナシ。



「このウェブサイトのすべてデーターの無断使用・転載・複写を固く禁じます。」 国際審美学会・事務局



OAM(大口式)インプラント

ドリルで骨を削らないインプラント治療

歯が全くない人、重度の歯周病や虫歯のある人たちが対象としたインプラント治療が注目されている。なかでもOAM(大口式)インプラントは、骨をできるだけ削らないインプラント治療で、患者から広く支持されている。

OAMインプラントの生みの親である、国際審美学会会長で医学博士の大口弘先生に、大口式と呼ばれる、ドリルを使わず、骨をほとんど削らない低侵襲のインプラント治療について紹介していただいた。

ドリルを使わないOAM大口式インプラント

インプラントとは、歯を失ってしまった場合に、天然の歯根の代わりとなる人工歯根(インプラント)を歯槽骨(歯の周りの顎骨)に埋め込み、かむ機能を回復させます。

ドリルで穴を開け、そこにインプラントを埋め込むのが一般的ですが、なかにはドリルの音や振動を怖がり、高血圧だったりする患者には手術ができないという難点がありました。その点、私が開発したOAM(大口式)インプラントは、ドリルを使わず、既存の骨を大切に保存する新しい治療法です。

骨の特性を生かして骨を広げ、骨幅を厚くする

骨は体積でみると約50%をコラーゲン線維が、そして残り50%をミネラルが占めているので、柔軟性と伸縮性があります。OAMは、

そんな骨の特性をうまく生かして、独自に考案した細い針のような特殊な器具を差し込んで骨を広げていきます。私は根管治療が専門だったので、そこで使っていたリーマーを改良して、骨の中にいれてみようと考へ、実践したわけです。特殊器具で骨が広がったところで、一段太い器具に差し替えると、その分だけ骨が広がります。こうして器具の太さを徐々に大きく

して骨を広げていくと、その部分の骨全体が厚くなり、同時にインプラントを入れる穴も完成します。そのため、2mmの幅しかない歯槽骨を瞬時に数倍に広げ、直径3〜4mmの太い丈夫なインプラント体を埋めこむこともできるのです。OAMは骨にダメージを与えない治療法です。

また、押し広げられた骨の穴は元に戻ろうとして、内側へ縮もうとします。その力がインプラント体を締めつけるので、穴とインプラント表面との隙間がほとんどなくなるくらいインプラント体がしっかり固定されます。これは初期固定手術時にインプラントがしっかりと骨の中に固定されていること(ロック)といって、インプラント成功の最大のカギといえます。

「もったいない精神」からOAM大口式が生まれた

OAMインプラント開発の背景には、「もったいないの精神」があります。通常のインプラント治療は、ドリルなどで健康な骨を削り取り3〜5mmの穴を開けますが、OAMでは健康な骨を削るのではなく、元の骨をできるだけ生かします。

ドリルを使うと、誤って顎の骨を貫通したり、神経を傷つけたりすることがありますが、OAMはそんなトラブルも起こりにくく、術者や患者さんの精神的な負担も減ります。

骨をドリルでえぐり取らないので痛みもほとんどなく、出血も少なく済み、患者さんにとって侵襲が少ないので日帰り手術も可能です。

骨移植や大掛かりな手術による入院も必要なく、局所麻酔で治療する

ドリルで骨を削りすぎた場合、元に戻すことはできませんが、OAMではくすくすつ穴を拡大していくため削りすぎることがなく、骨を広げることもできるため、計画していた位置に太くて長い丈夫なインプラントを入れることが可能です。

骨量が少ない場合は、骨を移植するか虫歯の様な細くて弱いインプラントを埋め込まずを得ませんでした。骨移植などは全身麻酔のため、入院が必要になります。費用もかかり、体の負担も大きいので健康状態が悪くなるといえます。OAMは骨移植や大がかりな手術も必要なく、局所麻酔でインプラント治療を行うことができます。

患者の立場に立った医療で患者の笑顔と出会いたい

OAMは、ドリルなどの歯科治療機器に頼るのではなく、手作業を主とした「日本的な職人芸としてのインプラント治療である」といえます。私は、自らを「骨の細工師」と呼んでいます。手作業のため、時間のかかる手術の様に思えますが、実際はインプラント埋入1本あたり約15分。手術開始から完了、その後のケアも含め計1時間程度で済み、私が以前採用していたドリル式より早く終わる傾向にあります。インプラント治療を受ける患者さんには、慎重に考えながら賢い消費者になつてもらいたいと思います。私たちが「これこそ患者さんの立場に立った医療だ」という信念で、

より患者さんのお役に立てるよう、努力を重ねていくつもりです。悩みを抱えて来院された方が笑顔で帰られると、一番の幸せです。一人でも多くの患者さんの笑顔に出会えるよう、OAM(大口式)インプラント治療を世界に向けて推進していきたいと思っています。

サンデー毎日
2009年5月24日号より抜粋改編

医学博士
国際審美学会会長

大口 弘

1947年生まれ。東京歯科大学卒業後、米国インプラントの第一人者、D.E. ワイスに学ぶ。帰国後「インプラントと義歯床」の国内特許を取得。1975年1月から2008年12月のインプラント埋入は1万本以上の実績がある。名古屋大学医学部客員前教授・非常勤講師、金沢医科大学口腔外科非常勤講師、国際審美学会会長・最高顧問



大口式インプラント
(O.A.Mインプラント)

ワケアリの ハナシ。

定価 500円(税込)



「このウェブサイトのすべてデータの無断使用・転載・複写
を固く禁じます。」 国際審美学会・事務局